

チェルフィッチュ 2023年新作

宇宙船イン・ビトゥイーン号の窓

日本語を母語としない俳優との創作がひらく「演劇と言語」の未来
いくつものリアリティが交差する、まだ見ぬSF演劇



作・演出：岡田利規

出演：安藤真理、徐秋成、ティナ・ロズネル、ネス・ロケ、
ロバート・ツェツシェ、米川幸リオ

東京公演

@吉祥寺シアター

2023年8月4日(金)～7日(月)

京都公演 / KYOTO EXPERIMENT 2023

@ロームシアター京都 ノースホール

2023年9月30日(土)～10月3日(火)

画像一式：<https://00m.in/8LLxv>

お問い合わせ

株式会社precog (プリコグ) 【平日10:00～19:00】 担当：黄木多美子、遠藤七海、村上瑛真

MAIL：info@precog-jp.net TEL：03-6825-1223 FAX：03-6421-2744

作品概要

重大なミッションを果たすべく、イン・ビトゥーン号が、
四人の乗組員と一体のアンドロイドを載せて、
宇宙を漂泊しています――

『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』では、
内容的な〈リアリティ〉と形式的な〈リアリティ〉、
どちらの〈リアリティ〉も複数、並列的に提示されます。

演劇において、舞台の上で、セリふがある言語で発される……。
そのことの意味・機能についても、『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』では
複数のそれらが提示されます。

それは、あたかもマルチヴァースのようだ、と言えるかもです。

『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』は、
「日本語を母語としない俳優が日本語で演じる演劇」と聞いて
多くの人がイメージするとおぼしきもの、とはおよそ異なる
すがた・かたち・はたらきを備えた演劇作品です。

岡田利規

ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト

演劇は、俳優の属性と役柄が一致せずとも成立するものです。それにも関わらず、日本語が母語ではない俳優はその発音や文法が「正しくない」という理由で、本人の演劇的な能力とは異なる部分で評価をされがちである、という現状があります。

ドイツの劇場の創作現場で、非ネイティブの俳優が言語の流暢さではなく本質的な演技力に対して評価されるのを目の当たりにした岡田は、一般的に正しいとされる日本語が優位にある日本語演劇のありようを疑い、演劇における日本語の可能性を開くべく、日本語を母語としない俳優との協働を構想しました。2021年よりチェルフィッチュはワークショップやトークイベントを通してプロジェクトへの参加者と出会い、考えを深めてきました。2023年3-4月にはこれまでのワークショップ参加者を対象にオーディションを実施、選ばれた4名とともに『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』を創作・発表します。今後も活動を継続し、このような取り組みが他の作り手にも広がることで、日本語が母語ではない俳優たちの活動機会が増え、創作の場がより開かれた豊かなものになることを目指します。

*ワークショップレポート

新しい演劇の形を目撃した！「日本語を使った演劇ワークショップ」レポート（precog note）

<https://note.com/precog/n/n54be1d88d66a>

*トークイベントアーカイブ

トークイベント チェルフィッチュによるノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクトについて考えるアーカイブ（YouTube）：<https://youtu.be/53gEzFUim5c>

ワークショップ／オーディションの様子



撮影：加藤甫



撮影：加藤甫





© 宇壽山喜久子

岡田利規 / Toshiki Okada (演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰)

演劇作家として、演劇カンパニーチェルフィッチュでの活動のほか、日本やドイツなどの劇場との作品創作も多数。2016年から2020年の4シーズンにわたって、ミュンヘン・カンマーシュピーレ（ドイツ）にてレパートリー作品の作・演出を務め、4作目『The Vacuum Cleaner』（2020年）がベルリン演劇祭 Theaterreffenに選出。2022年1月タリア劇場（ハンブルク/ドイツ）で創作した『Doughnuts』も同演劇祭に選出された。近年では能の現代語訳や能のフォーマットを用いた演劇作品『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」』（2021年）や全国共同制作オペラ 歌劇『夕鶴』新演出（2021年）、木ノ下歌舞伎『桜姫 東文章』（2023年）脚本・演出を手がけるなど活動の幅を広げている。

小説家としては2007年にデビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を発表し、翌2008年第二回大江健三郎賞受賞。2022年『ブロッコリー・レボリューション』（新潮社）が第35回三島由紀夫賞受賞、第64回熊日文学賞を受賞。

チェルフィッチュ

チェルフィッチュ / chelfitsch

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。

2007年クンステン・フェスティバル・デザール2007（ブリュッセル/ベルギー）にて『三月の5日間』を上演、初めての国外進出を果たす。以降、アジア、欧州、北米にわたる90都市以上で上演。フェスティバル・ドートンヌ・パリ（フランス）、ウィーン芸術週間（オーストリア）など世界有数のフェスティバル・劇場の委嘱および国際共同製作による創作も多数。

近年では、舞台映像作家の山田晋平と映像によって演劇的空間を立ち上げる新しい形式の演劇である「映像演劇」に取り組み、『渚・臉・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』（2018年）、『風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事』（2020年）、『ニュー・イリュージョン』（2022年）を発表。

KYOTO EXPERIMENT2019では、美術家の金氏徹平をセノグラフィーに迎え、「人間中心主義からの逸脱」をテーマに「モノと人」との関係問い直した『消しゴム山』を初演。2023年5月にはウィーン芸術週間（オーストリア）にて、引き続き同テーマを描く新作音楽劇『リビングルームのメタモルフォーシス』を作曲家の藤倉大との協働により制作、世界初演を迎えた。

プロフィール



安藤真理 / Mari Ando

2006年伊丹アイホールにて岡田利規ワークショップ&パフォーマンス「奇妙さ」に参加。以降2008年『フリータイム』、2009年『記憶の部屋について』（金沢21世紀美術館「愛についての100の物語」）、『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』、2011年『家電のように解りあえない』、2016年『部屋に流れる時間の旅』他に出演。



©Fanni Tsukahara

ティナ・ロズネル / Tina Rosner

ハンガリー出身の現代日本舞台芸術研究者。2014年から東京在住。

2011年に博士課程を取得。2005—2018：ペーチ大学で演劇学の上級講師、2017年からは東京の明治大学国際日本学部で講師を務める。

研究・教育の傍ら、俳優、演出家、Tokyo Acting Classの創設者としても活動。

特別研究員：UNESCO-Aschberg奨学金（2006）、国際交流基金博士研究員（法政大学2014）、日本学術振興会（早稲田大学2015-2017）

ホームページ：www.tinarosner.com



©Michael Holmes

ロバート・ツェツシェ / Robert Zetzsche

1986年生まれ、東ドイツ出身。2005年より執筆者として活躍。2007年ドイツの州立劇場で裏方として1年間働く。2010年より翻訳者として働き始める。2012年来日し、2013年より和・英・独の翻訳を開始。東京都現代美術館、広島県立美術館、ヴェネツィア・ビエンナーレ2019日本館展示「Cosmo-Eggs」、国際芸術祭「あいち2022」、KYOTOGRAPHIE 2023等、主にアート・写真関係の翻訳を行う。



©久保田碧音

徐秋成 / Giucheng Xu

1993年生まれ、中国河南省出身。2017年来日、多摩美術大学メディア芸術コース卒業後、2023年より東京藝術大学先端芸術表現科に在学。普段は主にゲームエンジンを用いて、映像作品やゲームを制作する。たまにパフォーマンスもやる。演劇を観るのは好きだが、今回出演するのは初めて、よろしくお願いいたします！



©Ralph Lumbres

ネス・ロケ / Nes Roque

1991年フィリピン、アンヘレス市生まれ。女優・劇作家。演劇、現代のパフォーマンス、教育における学際的、フェミニスト、脱植民地的実践の探求を行う。文部科学省の奨学金を受け、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科にて研究を追求。アジア太平洋地域の様々なプロジェクトで参加型アートやリサーチの実践、コミュニティの運営、教育を統合するかたちで活動する複合領域的な集団 Salikhain Kolektib の一員として活動。www.nessroque.com



米川幸リオン / Yonekawa Kou Leon

1993年生まれ。三重県鈴鹿市出身、京都市在住。京都造形芸術大学映画学科俳優コースと映画美学校アクターズコースを卒業。2017年チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーションに出演で参加し、2019年チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』／『消しゴム森』にも出演で参加、2022年には【市民と創造する演劇『階層』】（作・演出：岡田利規）に出演と演出補で参加。その他の出演に、小森はるか＋瀬尾夏美『二重のまち／交代地のうたを編む』（2021年）など。また近年は、映画・演劇などにおいて自身での創作活動も行っている。

公演概要

宇宙船イン・ビトゥーン号の窓

作・演出 | 岡田利規

出演 | 安藤真理、徐秋成、ティナ・ロズネル、ネス・ロケ、ロバート・ツェツシェ、米川幸リオン

※日本語上演・英語字幕

東京公演

公演日程 |

8月4日(金) 19:30

8月5日(土) 13:00☆★/18:00

8月6日(日) 13:00☆★/18:00

8月7日(月) 13:00

☆託児サービスあり(要予約) ★アフタートークあり

※受付開始・開場は開演30分前

会場 | 吉祥寺シアター

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目33番22号

ウェブサイト: <https://chelfitsch.net/activity/2023/06/in-between.html>

チケット |

サポートチケット*1 ¥8,000

一般 ¥4,000

U29*2 ¥3,500

U18*2 ¥2,000

障害者割引 *3 ¥2,000

アルテ友の会*4 ¥3,600

*1 本プロジェクトを支援していただけるチケットです。一般料金との差額は、この取り組みを演劇界へ広げていくために大切に使用いたします。

*2 要証明

*3 Peatixのみ、介助者1名まで無料、前売・当日同額

*4 (公財)武蔵野文化生涯学習事業団のみ

チケット発売日 | 2023年7月1日(土) 10:00~

チケット取り扱い | peatix、(公財)武蔵野文化生涯学習事業団ほか

京都公演

KYOTO EXPERIMENT 2023

公演日程 |

2023年9月30日(土)~10月3日(火)

会場 |

ロームシアター京都 ノースホール

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

クレジット

作・演出 | 岡田利規

出演 | 安藤真理、徐秋成、ティナ・ロズネル、ネス・ロケ、ロバート・ツェツシェ、米川幸リオン

舞台美術 | 佐々木文美

音響 | 中原楽 (LUFTZUG)

サウンドデザイナー | 佐藤公俊

照明 | 吉本有輝子

衣裳 | 藤谷香子

舞台監督 | 川上大二郎 (スケラボ)

演出助手 | 山本ジャスティン伊等 (Dr. Holiday Laboratory)

英語翻訳 | オガワアヤ

宣伝美術 | 牧寿次郎

アートワーク | 平山昌尚

プロデューサー | 黄木多美子 (precog)、水野恵美 (precog)

プロジェクトマネージャー | 遠藤七海

プロジェクトアシスタント | 村上瑛真 (precog)

製作 | 一般社団法人チェルフィッチュ
共同製作 | KYOTO EXPERIMENT

(東京公演)

主催 | 一般社団法人チェルフィッチュ

企画制作 | 株式会社precog

提携 | 公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団

助成 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

(京都公演)

主催 | KYOTO EXPERIMENT

企画制作 | 株式会社precog

(東京公演)

舞台監督アシスタント | 山田朋佳

(京都公演)

照明オペレーター | 吉田一弥

チェルフィッチュ

KYOTO EXPERIMENT

precog

ICHIJOUJI THEATRE
吉祥寺シアター

ARTS COUNCIL TOKYO

文化庁